

平成27年度 教育警察常任委員会管外視察の概要

- 視察日時 平成27年11月4日（水）～6日（金） 2泊3日
- 視察者 教育警察常任委員会（8名）
内野幸喜（委員長）、早田順一（副委員長）、小杉 直、
荒木章博、溝口幸治、前田憲秀、末松直洋、高島和男
- 視察先
- ①兵庫県篠山市役所（日本遺産関係）
 - ②神戸市教育委員会（グローバル人材育成関係）
 - ③岡山県美作市総合運動公園（プロスポーツチームによる町おこしプロジェクト関係）
 - ④岡山県警察本部（GIS（地理情報システム）関係）
- 視察趣旨
- ①我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定し、国内外に戦略的に発信することで、観光振興や地域の活性化を図ることを目的に文化庁が設けた「日本遺産」に、本県の人吉球磨地域を含む18件が初認定されたが、篠山市もその一つであり、ストーリー展開の方法として「デカンショ節」という民謡を用いて分かりやすく行っていることから、本県の次の日本遺産認定に向けた取り組みの参考とするため、今回の視察を実施。
 - ②神戸市では、地元の外国語大学との連携協定等を通じて、小学校における英語活動支援、中学生対象のイングリッシュ・サマースクールの実施、市立高校生の大学訪問の受入れ等、積極的に地域の英語教育やグローバル人材育成を行っているため、本県のグローバル人材育成に向けた取り組みの参考とするため、今回の視察を実施。
 - ③美作市では女子サッカーチームの岡山湯郷 Belle を支援し、幼稚園・小学校のサッカー教室や各種地域イベントへの参加等を通じた町おこしに生かしている。本県のロアッソ熊本等への支援を通じた地域活性化に向けた取り組みの参考とするため、今回の視察を実施。
 - ④岡山県警察本部が平成21年度から運用している地理情報システムは全国的に見て最も先進的なシステムであり、その運用の実際を視察することで、本県が導入を検討している地理情報システムの参考とするため実施。

■視察の概要

①篠山市役所（日本遺産関係）

日本遺産認定までは教育委員会所管で事務を行っていたとのことだが、認定後は企画財政担当課が所管となり、認定を契機とした活性化に取り組んでいる。

今後、国内外の旅行者が日本遺産を周遊できるよう認定を受けた各地域の連携の必要性も認識された。



■質疑・意見交換の様相

②神戸市教育委員会（グローバル人材育成関係）

神戸市外国語大学との連携協定に基づき、中・高英語教諭のスキルアップ研修等を実施するなど、指導にあたる教員の指導力向上に取り組んでいる。

また、ALT（外国語指導助手）を政令市の中で最も多く採用しており、ALTの活用策の重要性や課題も認識された。



■質疑・意見交換の様相

③美作市総合運動公園（プロスポーツチームによる町おこしプロジェクト関係）

湯郷 Belle にはスポンサー企業が約 100 社あり、スポンサー企業等を中心に選手を雇用している。スポンサー企業の確保が課題であるが、チームの付加価値を更に高めることで運営を安定させたいとのことであった。

また、東京オリンピック等に向けたキャンプ地誘致活動についても意見交換した。



■質疑・意見交換の様相

④岡山県警察本部（GIS（地理情報システム）関係）

犯罪や交通事故等の全ての情報を一元管理し、蓄積のうえ分析できる地理情報システムを導入しているほか、全ての地域警察官、刑事、白バイ警官が独自に開発した1,800台のPIT端末（携帯電話）を持ち、地理要因を含めた業務上の関連する情報をリアルタイムで共有するシステムを構築している。

導入費用等が課題となるが、本県が地理情報システムを構築するうえで情報の共有、活用方法の参考となった。



■ 質疑・意見交換の様様



■ PIT 端末を実際に操作